

資料 2-1 渡邊純さんのお母様・渡邊みさ氏から船後宛の手紙

ご存じのように 純は保育園・小学校  
中学校と地域の普通学級を進み  
あたり前に普通に生きることを貫ぬいて  
高校受験に向い続けました。



親の私が途中で何回くじけそうに  
なったことか。それでも純は「ただ普通に  
生きるだけ」と落とされても落とされても  
決して諦めることなく進んでいました。

定員内不合格にされ浪人が決まった  
直後に「4月から授業を受けさせて欲しい」  
と校長に直談判して参加したり、体育祭  
文化祭などの学校行事にも足を運びました。

そんな姿に心を動かして下さる先生方も  
出てきて下さり、協力的な先生も少しずつ  
現れていました。けれどとてつもなく高く  
厚い壁が立ちふさがり続けました。



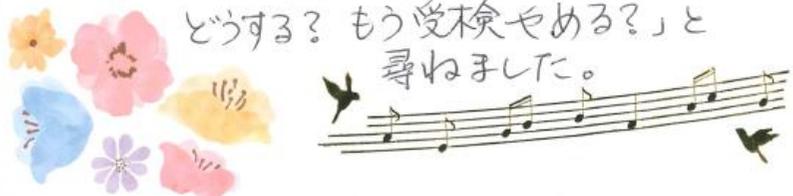
資料 2-2 渡邊純さんのお母様・渡邊みさ氏から船後宛の手紙



浪人が続き純は成人しました。No.4  
成田市の成人式、純の姿は同級生たちの  
まんなかに自然な姿でありました。2次会も  
夜遅くまで続き、まだ高校受験をしている  
話をする「純が高校生になれないのは  
おかしい！私たちが出来ることは何でも  
やるから」と言ってくれました。

成人式から1年後、21歳になって  
7浪で27回目の受験も定員内不合格に  
された直後の純に、私は「純、今まで  
本当に良く頑張ったね。高校だけが人生  
じゃないかも。他の人生でもいいんだよ。

どうする？ もう受験やめる？」と  
尋ねました。



すると純はものすごく怒って「うおー！」と No.5  
叫んだのです。私はハッとして「じゃあ、まだ来年も  
受験する？」と言うとニコッと笑ったのです。

純は決して諦めることなく28回目の受験に  
向っていましたが、道半ばで大空へ旅立って  
しまいました。どんなに無念だったことか…。

追悼集会に同級生が純への想いを  
寄せてくれました。そこには一緒に過ごして  
仲間にしたが、綴れない言葉が溢れています。

何より純は「障害があるなしに関わらず」  
平等に生きる世の中を信じていました。

そんな純は私の誇りです。

